

JHF REPORT



「2022パラグライディング日本選手権 in ASHIO」より（13ページから報告を掲載）

熱気球・滑空機・模型の4氏に国際航空連盟賞

9月20日の「空の日」に合わせて日本航空協会では表彰式を行っています。昨年度はコロナ禍により11月に延期になりましたが、今年度は予定通りに行われ、航空宇宙に関して功績のあった方々が表彰されました。併催される国際航空連盟（FAI）賞伝達式では、二つの賞の授与が伝達されました。

ポールティサンディエディプロマ

航空一般、特に航空スポーツ発展のために献身的努力を傾注し、団体組織

等で指導的役割を果たし、その業績が顕著である個人に授与する賞。今回は、九州大学航空部部長や日本学生航空連盟会長の要職を務め、2016年に日本滑空協会の会長に就任された後藤昇弘さんが受賞。

FAIエア・スポーツ・メダル

航空スポーツに関連したFAI委員会業務、競技会運営、若年層の教育訓練等に顕著な功績や貢献があった個人または団体に贈られる賞。

日本気球連盟理事を務め熱気球を用いた子供たちの更生保護活動や熱気球の普及活動に貢献された橋本精一さん、日本学生航空連盟理事・事務局長を務め日本滑空協会安全委員会に参画しグライダーの安全向上に貢献され後進の育成にも尽力された深田浩さん、日本模型航空連盟事務局長を務めこども模型飛行機教室の設立運営など模型航空の普及に貢献された渡久地政光さんが受賞されました。



JHFレポートはスポーツ振興くじ助成金を受けて発行しています

JHFフライヤー宣言

1. 自分の意志と責任でフライトします。
2. 自己の健康管理を行い、健全なフライトをします。
3. 社会のルールを守り、第三者に迷惑をかけません。
4. 自然を大切にします。

JHF創設40周年を記念して 白書発刊&イベント参加

JHF（当初は日本ハンググライディング連盟）は1982年に発足、ハンググライディングスポーツ唯一の統括機関として活動を開始しました（パラグライディングは1986年から）。

40周年を記念して、今年度末を目処にJHF白書の発刊を予定しています。また、12月10日（土）～11日（日）には、和歌山県紀の川フライターパークで開催の「バリバリ大試乗会」の会場にJHFブースを設置して情報発信などを予定です。

詳細が決まりましたらJHFウェブサイト等でお知らせします。

JHFの動き

JHF公式Instagramに ショート映像をご提供ください

JHF公式Instagramを始めました。
https://www.instagram.com/hang_para/
(下のQRコードを読み取ってください)

広報活動のひとつとして、パラグライダー、ハンググライダーを知らない方に興味を持ってもらえるような、気持ちよさそう！飛んでみたい！というショート映像を紹介していきます。

つきましては、会員の皆さんにも、楽しさが伝わる映像のご提供をお願いします。

ハンググライダーまたはパラグライダーでのティクオフ、フライト、旋回、ランディング等をしている15秒～60秒程度の動画をお願いします。あなたやお仲間の動画をぜひご提供ください！ただし一般の人が見て危険に感じるようなものはNGです。

詳細は、JHFウェブサイトをご覧ください。



教員・助教員技能証申請料改正

2023年4月1日より5,000円に

教員・助教員技能証申請料（新規・更新）は、2012年7月理事会にて教員、助教員を増やすために1,000円に改定しました。しかし思ったより効果がなかったことと、他の更新、継続がある技能証・認定証申請料との整合性を取るために、2023年4月1日より5,000円に戻すことが決まりました。

対象となるのは2023年4月1日以降に新規・更新（お手持ちの教員・助教員技能証の期限が2023年12月31日以降の方）の申請です（改正前に早めに申請をしても5,000円になります）。

2022年12月31日に有効期限が切れる方は、有効期限の改正により2023年3月31日までは有効となります。有効期限が切れる3月末までに更新のお手続きをお願いします。有効期限が切れて、4月以降の更新申請の場合は5,000円になります。

ご不明な点がありましたら事務局までお問い合わせください。

上級タンデム技能証検定 各地で開催しています

パッセンジャーに制限のないタンデムフライトをされる方は、上級タンデム技能証を取得してください。2019年新設のこの技能証、初回合格の皆さまは、今年度は継続検定になります。

【今年度の検定会開催予定】

- 石川県獅子吼エリア
開催済み（6月1日～2日）
- 静岡県朝霧エリア
開催済み（6月18日～19日）
- 北海道ルスツエリア
開催済み（6月20日～21日）
- 山形県十分一エリア
開催済み（7月5日～6日）
- 熊本県大觀峰等
10月29日～30日
- 静岡県朝霧エリア
11月14日～15日、
2023年1月23日～24日、
3月4日～5日
- 和歌山県紀の川エリア
12月13日～14日
申し込みはJHFウェブサイトからお願いします。

補助動力委員会

新委員を追加選任

前委員長の須藤彰氏が辞任（6月28日補助動力委員会）されて、欠員になっていた補助動力委員会に、2022年度委員として追加応募があり、9月12日文書理事会において下記の方を選任しました。

補助動力委員会1名 鈴木明武氏
定員に満たない教員・スクール事業委員会と役員選任実行委員会は引き続き募集中です。詳細はJHF事務局まで。

「もったいない事故」を ゼロにする！

JHF安全性委員会

今年も、死亡、怪我など重大事故が多発しています。毎年のように過去と同様の事故も起きていますが、防ぐことができない事故ばかりだったのでしょうか。

フライト前の点検をしっかり行うのはもちろん、過去の事故例に学ぶ、安全講習会で疑似体験をすることなどで回避できた事故もあるのではないでしょうか。

もったいない事故（防げる事故）はゼロにしたい！

数秒で行える確認をせずに死亡。それはあまりにも残念です。

判断ミス、ヒューマンエラーを少しでも無くす努力を各人がする必要があります。フライト仲間と知識を共有し、皆がルールを理解していれば事故を減らすことができます。例えば、クロスチェックの徹底や、「この風では飛ぶのを止めよう」など、より安全な判断につながるからです。

仲間同士で安全対策を考えルールを作れば、自分のうっかりミスも仲間に指摘されるはず。

一人一人の心構えで事故を減らし、特に「もったいない事故」をゼロにで

きれば、このスポーツはより盛り上がるでしょう。安全性向上のため皆さまのご協力をお願いします。

レッグベルト締め忘れ

疑似体験をしてみよう

パラグライダーハーネスのレッグベルトを締め忘れて離陸してしまった後のフライトを是非、想像してください。どれだけ恐ろしいものなのか。

お腹から下はハーネスの座板より下にぶら下がっている状態で、地面から数百メートルの高高度を飛んでいます。また、ブレークコードは少し引かれ気味で左右の操作も困難です。体が落ちないようにハーネスのベルトなどを力いっぱい掴んでいれば、操縦は最も困難。それを数十秒維持するだけでもたいへんな体力が必要です。

各地で開かれている安全講習会などで、一度は疑似体験することをお勧めします。

右の写真は、8月27日・28日に行われた新潟県ハング・パラグライディング連盟主催の安全セミナーです。多くの方が参加され、体育館でレッグベルト締め忘れによる疑似体験などの講習

を受けました。

クロスチェックは 二度する

レッグベルト締め忘れなどの危険を招かないために、クロスチェックを二度行うことを徹底しましょう。一度目は**準備の時に**。二度目は**飛ぶ直前に**。

クロスチェックとは、ご存知のように、自分で確認するセルフチェックではありません。誰かと一緒にチェックすることになります。ティクオフディレクターがいれば、飛ぶ直前に確認してもらうことが一番良いでしょう。

もったいない事故をゼロにすることを一人一人が意識して、安全にフライトを楽しんでください。

安全性委員会 委員長 伊尾木浩二



JHFレポート238号以後の事故報告

事故日	機種	内容	練習生	怪我の状況
7月2日	PG	ツリーラン後に落下と思われる。		死亡
7月10日	PG	ティクオフして斜面に沿うように飛行して斜面と激突		打撲
7月17日	PG	体験フライトでお尻からハードランディング、骨折		重傷
7月24日	PG+PG	空中衝突し落下、1名は無傷、1名は足を骨折		重傷
7月24日	MPG	強風でバランス崩し3mから落下、火災		重傷
8月11日	PG	XCフライトにおいて着陸失敗		重傷
8月27日	PGTM	タンデム飛行で自撮り棒がラインに絡み失速落下、同乗者打撲		パイロット重傷
8月28日	PG	ライズアップ加速中に左翼が潰れて転倒し大けが		重傷
9月1日	MPG	原因不明で川に墜落し重症、指導者は川で死亡。事故調査中。		死亡
9月4日	PG	SIV中にクラバット。ランディング場へ向い高度足らず陸地に尻着し圧迫		重傷

*前号10ページの表を「JHFレポート137号以後の事故報告」としましたが、正しくは「JHFレポート237号以後の事故報告」です。訂正してお詫びします。

「もったいない事故」をゼロにする! 自己確保すぐにできますか?

ツリーランディング（JHF教本では山沈）してしまった時に必要な用具を、みなさんほどのように携行していますか？ ここでは、その携行方法についての提案をします。

必要なもの

まず、必要な用具といえば…

□スリングテープ×3本（120cm×2本、180cm×1本）

□カラビナ（ロック機能のあるもの）

×2個

□30m以上の細引きコード

□ホイッスル

□スマートフォン（位置情報の共有のため）

…などが最低限の装備です。

さらに、スパナ（ラピッドリンク外し用）、のこぎり（エリアで携行禁止にしているところもあり）、ライト、

モバイルバッテリー（携帯電話充電用）、非常食などを必要に応じて加えるのもあります。

また、以前であれば、ロープとエイト環がありましたが、現在では「ツリーランしてしまったら、独力で降りようとしている、救援を待つ」という考えが一般に広まっていますので、携行する必要はないと考えられています（ただしXCパイロットは別）。

ツリーラン直後の手順

では、ツリーランしてしまい樹上に宙吊りになって自己回収が難しい場合、どのような手順をとればいいのでしょうか？

その手順をまとめてみましょう。

1. 自己確保

スリングテープ（120cm）を木の幹や折れにくそうな枝に回して支えと

し、そのスリングテープとカラビナひとつを使い、ハーネスのカラビナ部分につなぐことで、樹上から落下しないようにする。

2. エリア管理者に連絡

トランシーバーまたは携帯電話で管理者または同行者に状況を連絡する。その際に、けがの有無・引っ掛け方の状況と高さ・場所（スマートフォンのマップを使うと便利）を伝えます。

3. 救援チームの到着を待つ

じっと待つ。場所によって2～3時間待つこともあります。（この間にアクセルフックを外しておくと回収段階での手間を減らすことができます。）

4. パイロット（要救助者）を降ろす

救援チームが到着したら、樹上の要救助者は初めに地上へ降ろしてもらいます。そのために、要救助者も手持ちのスリングや救援チームが持ってきた道具（ザイルなど）を使い、引き下ろ



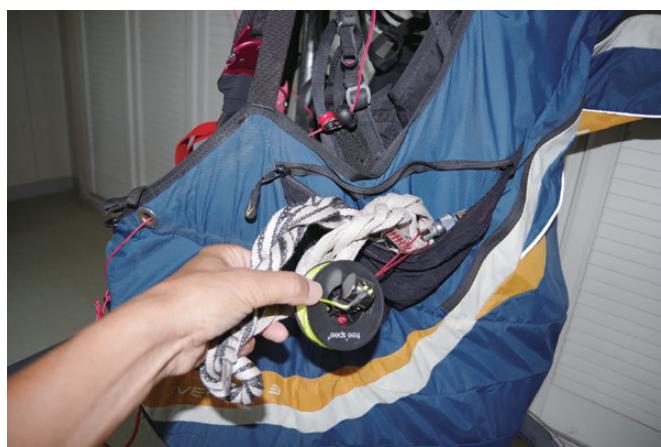
基本的なツリーラン（山沈）セットの例



使いやすい組合せを考えて用具を組み合わせた例



すぐに取り出せるよう、右ポケットには120cmスリングとカラビナひとつを組み合わせてセットする。



左のポケットには、120cmスリング&カラビナ以外の用具を収納。セーフティーラインも忘れずに！

すシステム*を構築して、協力して作業を行います。

5. 機体を回収

救援チームと協力して、作業します。樹上で回収作業をする方は必ず（落下することがないよう）自己確保をします。

携行方法の見直しを！

上記の手順の中で、ツリーラン直後の自己確保は、速やかに行うことが必要です。そのために、**スリングテープ（120cm）1本とカラビナひとつを組み合わせておき、ハーネス側面の右ポケット（左利きの方は左ポケットでもOK）に収納**しましょう。それ以外の用具は反対側のポケットやシートボード下（またはフロントコックピット）など、手の届くところへ振り分けて収納してはいかがでしょうか？

収納ケースにひとまとめにしているという方は、スリングテープ（120cm）1本とカラビナひとつだけは、ケースから取り出しておいた方が、短時間で自己確保が行えます。



すべての用具をひとまとめにしている方は検討が必要。



マウンテンハーネスに用具をかける時も要注意です。

「もったいない事故」を繰り返さないために

もし、あなたが事故を起こしてしまったら、あやうく大事故になるようなミスをしてしまったら、どうしますか？

自分の失敗を皆に伝えるのは、嬉しいことではありません。ベテランパイロットであれば尚更、気が進まないことでしょう。しかし、あなたの経験が皆の安全につながると思ったら、どうですか？

JHF安全性委員会では、事故再発防止のために、事故やインシデント情報を収集しています。当事者、エリア・スクールの管理者など関係者の方は、事故報告をしてください。目撃しただけだから報告までは……という方は、JHFウェブサイト、会員ページトップの画面左上、『事故情報収集ページ』からお知らせください。匿名で結構です、ぜひご協力を！

また、マウンテンハーネスを常に装備してフライトしている方は、そこに用具を装着していることもあるようですが、宙吊りになった場合に体が傾いて、それらの用具を取り出そうとしたときに、用具が自分の体重の下敷きになってしまふと取り出すことが難しくなる場合もあることを考慮してください。（事故の時には想定を超えるような、思いもよらないことが起こりがちです。）

ツリーランしてから樹上より落下してしまい、重大事故となってしまった事例が、毎年起こっています。（自己確保をして）落下しなければ、また独力で降りようとしなければ、何ともなかつたのに…『もったいない事故』といえます。

万が一の時に備え、いつもの装備の携行方法の見直しを提案します。

また、用具や手順など、皆様のアドバイスやご意見がございましたら、JHF（info@jhf.hangpara.or.jp）までお寄せください。

安全性委員会 委員 目黒 敏

*引き下ろす際の注意点

エイト環とザイルを用いて要救助者自身が懸垂下降をするためには、十分なトレーニングと経験が必要になります。（クライミングの世界では、懸垂下降が常に事故の上位になっています。）そのため、引き下ろすシステム構築の際には、地上の救援チームがエイト環とザイルを使い、システムを構築する方が、確実な態勢をつくりやすくなると考えられます。

※よりわかりやすくするために、写真はハーネスのチェストベルトを外して撮影しています。



自分の体重がかかってしまい用具を取り出せなくなる場合もあります！



ランディング時はエンジンカットが基本。 ガソリン火災への備えも万全に！

JHF補助動力委員会

今年7月、動力付きパラグライダー（モーター・パラグライダー／パラモーター）の墜落による火災事故が発生しました。

報告によると、今回の発火について、当該機はエンジンやユニットの改造はしておらず、落下による接地の衝撃で、マフラーの先が燃料タンクに接触。その後、パイロットがうつ伏せの状態で倒れた際、フルスロットルになったことにより、排気熱で燃料タンクに穴が開き、気化したガソリンに引火。さらにガソリンが漏れてハーネスに引火したと推測されています。

幸い、落下地点がエリア内であったことや、大勢のメンバーがすぐに駆け付けられる距離にいたこともあり、パイロットを救出することができたとのことです。

この事例は誰にでも起こりうることであるため、ランディング時にはエンジンカットを基本とし、自身と仲間を守るためのフロートと緊急パラシュー卜、そして火災への備えも必要です。パラモーターはガソリンを使います。タバコや焚火等、様々な要因が重なれば、発火する可能性はゼロではありません。

また、ガソリン火災には、水での消火はできないため、消火器の利用が不可欠です。フライト時だけでなく、給油中や整備中の火災、車両火災などに備えて消火器を携行することを推奨します。

なお、レスキューの際は、必ず自分の安全を確保しつつ、救助にあたってください。

この機にいま一度、自分と仲間を守

るために行動や装備について、クラブ・スクール内で話し合ってみてください。

【JHFからのお願い】

1. 単独行動でのフライトは控える。
2. 消火設備を常時携行すること。消火能力及び取り回しの容易さを考慮して、サイズ3号の消火器を推奨する。



ガソリンは専用容器に入れ、取扱いは慎重に。



体験フライトでの重大事故が発生。 安全性確保のための確認をお願いします。

JHF安全性委員会

体験フライトにおける重大事故が発生しています。

体験会を行っているスクールやクラブの皆さんに、安全性確保、事故防止のために下記のご確認をお願いします。

1. 参加者の動き

体験参加者の操作の一連の動きに、しっかりと対応できているかを、より

慎重に確認して、体験フライトを行ってください。

2. ハーネスの安全性

パラグライダー体験では、ショートフライトを行う会場の地面が固い場合、或いは芝地でもお尻からハードランディングを行った場合に備えて、プロテクター、エアーバッグ等の装備を

し、衝撃吸収材のない薄いハーネスを使用しているスクールは、交換等を含めて再確認していただき、安全配慮を行ってくださるようお願いします。

3. 定期的に機材点検

機材の劣化の有無、カラビナの定期交換を含めて、定期的に体験機材の点検を行うようお願いします。

JHFウェブサイト
安全性委員会ページをご覧ください

に、これらの情報をぜひご活用ください。
安全性委員会の前身であるJHSCの議事録も掲載されています。かつての委員や関係者が安全性向上のためにどのような活動をして、現在につながっているのか、興味のある方はこちらもどうぞ。

JHFウェブサイト、安全性委員会のページをご覧になったことがありますか？
事故報告・事故報道速報だけでな

く、事故防止のための注意と提言や、セーフティーノーツ（DHVやメーカーが発表する機材の耐空性改善に関する通報）、型式登録された機体の諸元・飛行試験報告書など、さまざまな情報を安全性委員会のページから得ることができます。事故を起こさない／起こさせないため

新入生の活動

2022年度に入部した新入生たちの活動について報告させていただきます。

足尾エリアでは今年の夏に、今年度初の新入生を主体とした2泊3日の合宿を行いました。日中は普段通りの斜面講習に始まり、座学や大洗という海岸でのグラハムを、夜にはカレーライス作りや、花火・BBQを行いました。

これまで新入生は同期との関わりだけでなく、上級生との関わりも同じ大学の生徒間以外ではありませんでした。しかし、この機会を通じて様々な大学の同期・上級生だけでなく社会人の方との関わりを持つことができました。

コロナ禍発生以来伝えることのできなかった、コロナ以前の足尾の雰囲気を味わってもらうことができたと思います。

また、今回の合宿を機に多くの新入生が自機を購入することができたのに加え、最終日にはパラグライダーの生徒1人が新入生第1号の初飛びをすることができました。

合宿以降も新入生は積極的に活動に参加するようになり、コロナのために活動にあまり参加できなかった上級生が続々と活動に復帰してきている今、

足尾はコロナ以前の活気を取り戻しております。非常にうれしく思います。

今回の合宿が成功したのはサポートしてくださった社会人・インストラクターの方々のご助力のおかげです。本当にありがとうございました。

他地域との交流

今年度掲げていた目標のうち、新歓についてはおおよそ成功したと考えています。各地域内での交流もかなり進んできたのではないかでしょうか。なので、他地域との交流にフォーカスを当てていきたいと思います。

現時点ではすでにハンンググライダー学生選手権を開催しました。私自身は参加できていないので参加した者の話

にはなりますが、クラスによっては競技ができなかった日もあったものの、最終日には無事全クラス競技成立しました。けが人も出ず、機体の破損もなく大会を閉会することができました。東北から九州まで、全国各地の学生との交流もできて非常に充実した大会になったようです。

今年度はこのような大会やツアーや開催に力を入れていきます。経験不足ゆえの未熟さがあるとは思いますが、尽力していきますのでご協力よろしくお願ひいたします。これからも安全管理をきちんと行いながら、空を楽しめましょう。

篠原 旭



足尾での合宿で今年度新入生の初飛び第1号が。



合宿の夜は花火も。

JHFからのお知らせ

HG教本／PG教本を好評頒布中

ハンンググライディング技能証規程の改正に伴い、教本の内容も大幅に見直し、『JHFハンンググライディング教本改訂版』を2021年6月に発行、頒布を開始しました。A4サイズ、224ページ、モノクロ印刷。

また、2021年3月、皆さんにお待ちいただいていた『JHFパラグライディング教本改訂版』を発行しました。A4サイズ、176ページ、カラー印刷。

どちらの教本も、写真や図を用いてわかりやすく解説しています。入門者はもちろんのこと、既に経験を積みフライトを楽しんでいるパイロットにもぜひ読んでいただきたい内容です。

HG教本、PG教本とも、1冊3,000円（送料込み）。一度に10冊以上ご注文の

場合は、1冊2,800円です。JHF登録スクールまたはJHF事務局にご注文ください。事務局にご注文の場合は、



JHFウェブサイト「JHFのご案内〔書籍情報〕」から注文書をダウンロード、必要事項をご記入ください。代金をお振り込み（送金手数料はご負担ください）のうえ、注文書と代金振り込み控えを郵便またはFAXでJHF事務局にお送りください。ご入金を確認後、教本を発送します。

チェック5タグの活用を

JHFでは「チェック5タグ」を頒布しています。これはハーネスなどに装着し、ティクオフ前にタグを読み上げて、準備は完全か、プレフライトチェックをしっかり行ったかを確認していただくためのもの。全フライヤー会員にお送りしましたが、追加をご希望の方は各地のJHF登録スクールでお求めください。JHF事務局からの送付もできます。メールかFAXでご連絡ください。1セット300円（送料込み）です。







第9回JHFハンググライダー・バラグライダーフォトコンテスト最優秀賞 深野達也「光の射す方へ」

写真で空の仲間を増やそう！

第9回JHFハンググライダー・パラグライダーフォトコンテスト 入賞作品発表

最優秀賞 深野達也「光の射す方へ」



JHFフォトコンテストは、ハンググライダーやパラグライダーの写真を多くの人に見てもらうことによってこのスポーツの普及に繋げることを目的としています。毎年開催となって5年目、第9回を迎えた今回は「ハンググライダー、パラグライダーの楽しさ、美しさを表現した写真作品」に、「ハンググライダー、パラグライダーを中心となった写真で、一般の人の目を引きつける写真」というテーマも加えました。

最近は多くがJHF会員の作品になっていましたが、今回は応募総数217作品のうち半数以上が会員外の方の作品でした。皆さま、ご応募ありがとうございました。

フォトグラファーの嘉納愛夏さん、山本直洋さん、安田英二郎JHF会長が厳正な審査を行い、深野達也さん撮影の「光の射す方へ」を最優秀賞に、富樫岳さん撮影の「XC御釜」を優秀賞に決定しました。また、Rick Nevesさん、中村浩希さん、中村正哉さん、山内渉平さんの各作品が入選となりました。入賞された皆さん、おめでとうございます！

第10回フォトコンテストの開催も予定していますので、いろいろな場面を撮りためておいてください。

なお、入賞作品と、応募作品のなかの季節感のある優れた写真を2023年JHFカレンダーにします。カレンダーの詳細は15ページ/JHFウェブサイトでご覧ください。

と言いますが、素晴らしい賞を頂けたことで、幸せを実感できました。この度は本当にありがとうございました。

今後は全国のフライトエリアに撮影に行きたいです。そして、いつか自分も飛びます！

●嘉納評●

今回の応募作品の中では頭二つくらい抜き出ていた印象でした。

光と影のバランス、陰影のグラデーション、画面構成は文句なしで、太陽光が雲間から差して海面を照らす瞬間の「いいところ」でシャッターを切っています。ロケーションも瀬戸大橋としまなみ海道、四国山脈と本当に美しいですね。

加えてパラグライダーのさりげない配置がちょうどいい。まるで鳥のようにも見えて二重の驚きを見るものに与えるでしょう。動的被写体は偶然の要素が強く、それがバランスよく配置されているのは神の采配でしょうか。

また、プリントで応募していたので、画質・データのクオリティの高さは一目瞭然でした。（データ応募かプリント応募かは選考の決め手にはなりませんが、今回この写真の持つデータ品質を証明するという意味においては非常に有効でした。）

また素敵な作品を見せてください。最優秀賞、おめでとうございます！

●山本評●

とても綺麗な作品で、一番最初に目を惹かれました。こんな景色の中を飛んでいるパイロットはとても幸せな気分になっているんじゃないかな想像できます。

遠くに映っている煙突の煙を見ると結構風が強いようなので、雲の動きは早く光の位置もどんどん変わっていたのではないでしょうか。一瞬の光の芸術を上手に捉えています。

美しい景色の中をさりげなくパラグライダーが飛んでいる構図が良いのですが、JHFフォトコンテストとしてはもう少しパラグライダーが大きくわかりやすく映っていたら完璧でした（笑）。それでもプリントもしっかりさ

最優秀賞

深野達也「光の射す方へ」

撮影地：岡山県玉野市王子が岳フライトエリア

●受賞者から●

この度はこのような素晴らしい賞を頂き誠にありがとうございます。とても嬉しく思っております。

作品についてですが、この日は瀬戸内海国立公園に指定されている、王子が岳に瀬戸内海の夕景を撮影しようと和歌山県から車を走らせました。

現地に到着して、瀬戸大橋や讃岐富士がよく見え、これぞ瀬戸内！という風景に感動しながら撮影を続けていましたが、上空に何かあるのに気づき、よく見てみるとパラグライダーのシルエットが…。それも3機も！（恥ずかしながらここに来るまでは、王子が岳がパラグライダーの人気エリアとは知りませんでした…）

これは良い写真が撮れるぞと思いました。

この日は雲が多く、雲間から光が射す「天使の梯子」が出たり消えたりしていました。どうかこの光が消えないうちに、パラグライダーがいい位置に行ってくれたら…と願いながら待っていると、どんどん移動して、いい感じの画に。お陰で、光が射す瀬戸内の風景に、パラグライダーが向かっていく贅沢な写真が撮れました。フライヤーさんに感謝です。きっとこの日飛んでいた方は、もっと素晴らしい風景を見ていたのでしょうね。

「天使の梯子」を見たら幸運になる

優秀賞 富樺岳「XC御釜」



れており写真作品としてのクオリティが高く、最優秀賞となりました。

優秀賞 富樺岳「XC御釜」

撮影地：宮城県＆山形県蔵王連峰

●受賞者から●

自分が操作しているのに映画か何かを見せられている気分——仲間の言葉を借りれば、そんな体験でした。高度3000mからの光景が風切り音と共に鮮明に蘇ります。

そのとき私はXCフライトの真っ只中。ホームエリア・南陽スカイパークから北東約24km、蔵王連峰上空で未体験の雲底高度を進んでいました。目標は、かの有名な火口湖『御釜』。

カルデラ湖である御釜は外輪山が切り立ち、3000m以上の高さを以てしても直前まで見えません。なおも高度を上げながら接近し、その縁が見えた瞬間には一発で“それ”とわかりました。碧い！

こればかりは写真では伝えられないのが惜しい限りですが、周囲の地形を

含めた御釜は恐ろしく巨大。1500mはあるはずの対地高度にも関わらず、眼下のカルデラは異様に近く感じました。未知の空域、活発な大気に緊張しながらも、空撮家の端くれとしてこれを撮らなければ帰れない。

思い切ってカメラを取り出し自分がパラグライダーでここへ来た証を収めました。そんな『XC御釜』の一枚です。

フライトはその後、南陽へ戻ったのち勢い余ってもう20km向こうの米沢へ。道中、高度3481mまで到達しました。ちなみに、5月でもこの高さの気温は5℃。次はもっと暖かくして行こうと思います（笑）。

★XCの全貌はYOUTUBEチャンネル『南陽クラウドサウナ部』よりご覧ください！

●嘉納評●

パッと見、雪のある高い山の上を飛んですごいなあ…という第一印象から、よく見たら蔵王の御釜やん？！と驚いた一枚です。

蔵王の御釜には訪れたことがあります。その時は御釜の周辺でもものすごい強風が吹き荒れていました。10分も居られずほうほうの体で引き揚げた思い出があります。

その上空となると風はさらに凄いのでは？と思ったのです（もちろん天候にもよるとは思いますが）。

この写真には、頂上の真上でシャッターを切る努力、ちょうどいい角度で撮るタイミングなど、パラグライダー写真家ではない私でさえ目を閉じると疑似体験できるような臨場感と緊張感、そして感動があります。

惜しむらくは、カメラを取り付けているステックが写り込んでいること。一昔前は当たり前だったのが、デジタル技術の進化により360°カメラが現れ、撮影者には常識だったが撮影の知識のない一般人にとって謎だった「棒」が消え、芸術性が増したと言えます。

しかし棒が写り込んでいるとはいっても、空撮セルфиーでこれ以上の作品はありませんでした。昨今のデジタルカメラの進化の速度に機材の更新が追

いつかないのは半分以上のプロカメラマンも同じだと言えますが、できれば高みを目指してほしいと思います。

●山本評●

パラグライダーをやっている方なら、エンジンを使わない普通の山飛びでここまで来る難易度を知っていると思います。さらにここで一脚を伸ばしてしっかりとお釜をバックに自撮りをする余裕があることからも、このパイロットのパラグライダー技術の高さを感じます。

ただ一つ写真作品として残念なのは、自撮り棒が映ってしまっている範囲が広いためどうしても気になってしまいます。自撮り棒が映ってしまうのは仕方がないことなのですが、もう少しカメラの向きを調整してできるだけ映らない角度にするとか、もしくは360度カメラであれば自撮り棒が映らない撮り方もあります。写真の撮り方に気をつければ、さらに素晴らしい作品が撮れるようになります。

入選

Rick Neves 「360 over the beach」

撮影地：Oludeniz, Turkey



中村正哉「月夜の夢」

撮影地：山口県岩国市高照寺山エリア



中村浩希「雲の影と波」

撮影地：静岡県東伊豆町伊豆フライトハウス



山内渉平「sailing day」

撮影地：長野県北アルプス涸沢カール



審査員総評

嘉納愛夏



前回より応募作品数は倍ほどに増え、大いに期待して審査に臨みました。しかしながら、蓋を開けてみれば平凡な作品が多く、工夫や意外性に富んだ（飛んだ？）作品はあまり見られませんでした。

また、毎回あるのですが、同じ被写体を同じ角度・大きさで撮影した連続した写真を、決めきれなかったのか、何枚も送られる方がいます。気持ちはわかりますが双方にとって非常に無駄なんですね。

「決める力」というのもカメラマンには求められるので、他人に選択を委ねている時点で「残念」なのです。付け加えて申しますと、そのような作品は選ばれたためしがありません。

空撮写真を除いた構図で言えば、自分の目線からパチッと撮ったものが多くたのも、もったいなかつたです。しゃがんだり、少しここかに上ったり、見上げたり…または地を這う生き物の目線から、というような工夫をしてみるだけで表現の幅が広がることがわかります。

空を飛ぶことがチャレンジのように、写真撮影にも果敢にチャレンジしてほしいと思います。

入選作品については、ハンググライダー・パラグライダーならではのダイナミックな写真が順当に選ばれました。カレンダーの写真も季節感のあるものを選べて安心しました。ただ、先にも述べた意外性のある写真が一枚は欲しかったところです。

山本直洋



今回はJHF会員ではない一般の方からの応募も多く、コロナの影響で外出を自粛する方も減ってきていたんだなと感じました。パラグライダーやハンググライダーをやっていない方にも興味を持ってもらいたい、というのもフォトコンテストの大きな目的なので、とても嬉しいことです。

飛びながら撮影した写真でなくとも、パラグライダーやハンググライダーとわかるものがどこかに映っていれば大丈夫です。今回の最優秀賞もそうですが、やはり綺麗にプリントされた作品は選ばれやすくなります。今回

は合成写真も入選しました。合成は写真作品と言えるのか？という意見もありますが、素材自体が写真であれば様々な表現があって良いと思います。常識にとらわれない面白い作品をお待ちしております！

安田英二郎



今回はフライヤーではない方からの応募が目立ちました。応募者の範囲が広がることは普及の観点から望ましいことですし、新しい視点から撮影された写真は新鮮でもありました。

さて、JHFではインスタグラムに見られるように写真や動画を介した普及広報活動に力を入れていきたいと考えています。そこでフォトコンテストに応募するような作品ではなくて、普通の人が見たときに興味を引くような写真や動画（1分以内）を募集したいと思います。ご協力いただける方はJHFウェブサイトをご覧ください。ただし事故などの動画は広報に適しませんし著作権のないものも対象とはなりませんのでご注意ください。

第44回鳥人間コンテスト2022 新記録533mあざみ野、36868m東北大が優勝

報告：山本 貢

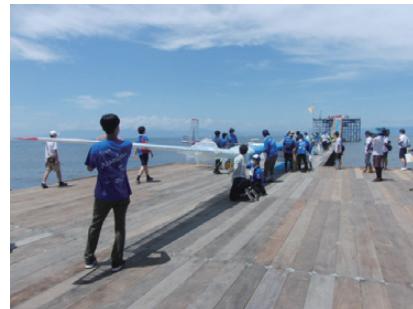
去る7月23日（土）、24日（日）の2日間、毎年恒例の鳥人間大会が滋賀県彦根市で開催された。

その様子をお伝えしたい。

7月23日

風が強く、ティクオフディレクター外村氏の一瞬の判断で、次々と機体を飛ばすが、7機を飛ばしたところで、競技を続けるには危険すぎる風と判断。中断する。

残りの機体は明日の飛行に…。



チームあざみ野、新記録533mで滑空機部門優勝。



人力プロペラ部門優勝は36868m、東北大。

7月24日

昨日とは打って変わって好条件が期待されたこの日。

昨日残った滑空機部門の機体を、まず3機飛行させた後、人力プロペラ部門へと進む。

最初に大阪工大が、個性的な一枚プロペラを回しながら飛行し、いきなり14274メートルの記録を叩き出す。

その後、今回の優勝候補の日大理工学部がフライトするが、ちょうどこのころに、この日一番の悪条件となってしまい、記録は1834メートルと意外な

結果に終わってしまう。

また、この後飛んだ東京工業大学Meisterも、離陸に失敗してしまう。

しかし、同じく今回の大会の優勝候補の東北大が、旋回ポイントを折り返して、再び鳥人間大会会場に戻ってきた！ 湧き上がる観客席。

その後このチームはそこから少し距離を伸ばして、36868メートルの記録を出して優勝となる。

この後、残った5機の滑空機部門へと競技は移行したが、最初のフライトとなるチームあざみ野が、巧みな操縦で上手く追い風をつかみ、533メートルを飛行。

ちょうど10年前に、三鷹茂原チーム

の大木氏が樹立した501メートルを超えて、滑空機部門の新記録を達成！

そして、最後のフライトは、優勝候補であり、前記録保持者の、チーム三鷹茂原下横田の大木氏。今回新しい機体での参加だったが、記録は482メートルで、2位となる。

しかし、新しい機体での参加となつたこのチーム。その機体の完成度が以前のものより高く、今回のフライトでは、まだまだそのポテンシャルを出し切つていないように私には感じられた。

今後このチームが、今回のチームあざみ野の新記録を、更に塗り替える大記録を作ることを期待せずにはいられない。

2022パラグライディング日本選手権 in ASHIO 小梶渓太が完全勝利！女子は平木啓子が連覇

9月16日-19日 茨城県石岡市 nasa足尾山フライトエリア 報告：競技委員長 板垣 直樹

昨年はコロナウイルスの余波を受けて中止となったパラグライディング日本選手権、ここ足尾山エリアでは2020年以来2年ぶりの開催となった。

週間予報では台風14号の接近で大会そのものも危ぶまれたが、4日間の日程の前半2日間でdayquality2となり、日本選手権が成立した。

9月16日 Task 1

沖縄の東海上に台風14号、一方、高気圧は東北地方の東の海上にあり、足尾エリアは高気圧圏内となり概ね穏やかな晴れベース。気温減率はあまり良くないものの日中の気温が約30℃まで上がり、午前中は1200m、午後は場所

によって1500m程まで上がるが、層積雲の発達によって日照の無くなる場所もあった。

ティクオフオープンは10時50分、ティクオフ正面、南東2~4m/s程の良い風。75人の選手がオープンから40分で全員飛び出し、上空で12時の一斉スタートを待った。

タスクはnasa足尾ティクオフ前と猿公園の先を2往復の後、北東に21.7km、のち北北西に20.3km進み、芳賀ゴルの50.4km。

スタート直後、良いポジションからスタートした小梶が沖寄りのコース取りも良く先頭に行く。

高峰から先は層積雲が張り日照がほ

とんどなくなり、先頭のペースが大きく落ちる。

後ろから追い上げる選手は、各々のコース取りで仮頂をとり、岩崎が良いサーマルをヒット、一気にトップへ追い付く。

二番手グループの成山たちがいち早く西に出て先頭が入れ代わるが、終始キープハイを守った小梶が、曇天下、次々にランディングしていく選手の上をギリギリで越えて行き、トップゴール。

花田、小林、平木、岩崎と続き、最終的に約半数の32名がゴールする素晴らしいタスクとなった。



タスク1、タスク2ともにオープンから約40分で全員飛び出し、一斉スタートを待った。

9月17日 Task 2

台風は停滞し昨日と変わらない気圧配置。減率は若干悪くなつてマックス1200m、雲も多くなる予報に、タスクはティクオフを一往復した後に北東に仮頂手前まで行き益子ゴールの29.5km。

ティクオフオープン後、今日も約40分で全選手がティクオフ。一人もランディングすることなく11時30分のスタートを迎えた。

しかしスタート時間が早く、ほとんどの選手が800m前後でスタートし苦しい展開が始まった。

そんな中でも小林、成山たち先頭集団は勢いよくファーストターンポイントを通過し戻ってくるが、弱いサーマルでスタック。ベテランの小渕たちの集団が悠々と上空を越えて行った。

高峰の渡りも1000m程と低くなかなか山を離れられない中で、小渕、福井

が北上を開始し、二番手グループも続く展開。先頭の小渕は高峰で300mまで下がるもいいサーマルをヒット。

そこに真っ先にかぶさつたのが小渕だ。その後はサーマルトップが1200m程まで上がり、昨日に続き小渕がトップでゴールを決めた。二番には橋本、そして山下、大渕と続き、スタート時の渋さと裏腹に38人の大量ゴールとなつた。

続く3日目4日目は台風のため競技キャンセルとし、予定より1日早く9月18日に閉会式を行つた。

今年は台風だけでなく天候不順で難しい状況だったが、選手のフライトレベルが高くなり、機体の性能向上だけでなく気象予報の精度やタスクセットも絶妙にはまつた。その結果、両日とも多くのゴール者を出し選手全員が納



総合入賞者。小渕、高々とガツボーズ。



総合女子入賞者。総合6位の平木が選手権者に。



スポーツクラス入賞者。総合女子3位の金本が優勝。

得する競技で日本選手権者が選ばれたと思う。

パラグライディング界では若手と言つていい小渕が連日トップゴールでの完全優勝、初の日本選手権を手にした。また、総合6位入賞の平木が前回に続き女子日本選手権者となった。これまであまり上位に入らなかつたベテラン選手の活躍も目立つた。大きな事故もなく、良い大会が成立したと自負している。

参加全選手と大会スタッフ、関係各位に感謝します。



小渕選手、2日続けてトップゴール！ 初の日本選手権を手にした。



予想を超えて、タスク1は32名、タスク2は38名がゴール。

[総合]

1位	小梶 溪太	神奈川	1972点
2位	岩谷 勝弘	奈良	1792点
3位	宮田 清和	兵庫	1769点
4位	小林 大晃	三重	1760点
5位	岩崎 拓夫	京都	1694点
6位	平木 啓子	静岡	1682点

[総合女子]

1位	平木 啓子	静岡	1682点
2位	成山 奈緒	大阪	1596点
3位	金本 知子	山口	1546点
[スポーツクラス]			
1位	金本 知子	山口	1546点
2位	氏田 敏彦	神奈川	1315点
3位	森田 賢	大阪	1186点
4位	岩本 晃治	大阪	1162点
5位	村田 好彦	埼玉	1157点
6位	川口 孝	長野	1139点

日本選手権者から

小梶 溪太

ハンググライダーとパラグライダーを始めた時からずっとお世話になっている足尾山nasアエリアでの開催だったので、今年の日本選手権は良い結果を残したいと思って挑みました。自分にとっては出来過ぎの2日連続トップゴールで優勝することができました！

大学生の時にハンググライダーを始めて、競技に参加するようになってさらにのめり込んで、卒業後は「もっとたくさんレースがしたい！」と思い、パラグライダーの競技にも参加するようになりました。

仕事もあって、海外の大会にはなかなか参加できず、国内大会が競技のメインになっている僕にとって、日本選手権は大きな目標の一つでした。経験年数的には、ハンググライダーで優勝するのが最初の目標かな、なんて思っていましたが、気象条件によって何が起こるか分からぬのがこの競技の面

白いところ。

今回はレース中に時々トリッキーなコンディションが訪れて、強豪選手たちが苦戦する場面がありました。慣れ親しんだホームエリアをひとりマイペースに飛んでいた僕のフライトが奏功することになりました。もともと人と違うコースを選択してうまくいくことに喜びを感じるタイプなので、経験の浅い頃はそれが裏目に出で悔しい思いをすることも多々ありましたが、少しずつ精度も上がってきました。今回はそういう飛び方が結果に繋がったので、素直にとても嬉しいです。

平木 啓子

2022年パラグライディング日本選手権で女子優勝することができ、とても嬉しいです。今回も、実力で勝ち取ったというよりは、色々なラッキーに恵まれて舞い込んだ勝利を感じています。今の日本女子は、実力伯仲、そして新しい人たちもどんどん成長しております。優勝には自力だけでなく運の助けが必要です。

今年は7月に参戦したワールドカップの頃から調子が上がってきた、というかラッキーが続き、いい成績が残せています。この感じを逃さないよう自分のものにしたいところですが、毎年浮き沈みがあって、なかなか運に頼らず勝てるようにはなれません。難しいです。

でもパラグライダー競技には勝つことの他にも大きな魅力があります。

自分はスポンサーを頂いている身なので「勝つ」ということはとても重要なのですが、一旦飛び始めると、そんなプレッシャーなど忘れ去って誰よりも高く早く、ゴールを目指して、夢中になって楽しんでいます。上手なパイロットたちと切磋琢磨して飛べる競技は本当に楽しくやめられません。



日本選手権を勝ち取った小梶・平木両選手。

今回の大会は、思いっきり楽しんで、そして結果も残すことができた、最高の大会となりました。

応援してくださいました皆さん、ありがとうございました！

JHFからのお知らせ-2

■朝霧でPGアキュラシー日本選手権

12月3日(土)・4日(日)の2日間、静岡県富士宮市朝霧高原において「2022パラグライディングアキュラシー日本選手権 in ASAGIRI」を開催します。

参加の申し込みは11月18日(金)締め切りです。詳細は、JHFウェブサイト内のPG競技委員会のページをご覗ください。

■2023年JHFカレンダーを頒布

第9回フォトコンテストの入賞作品と、応募作品から選んだ季節感のある写真で、2023年のJHFカレンダーを作り頒布します。

仕上がりサイズはA4。これを上下に開き各月A3サイズの縦型吊り下げタイプです(写真は表紙)。

ご希望の方はJHF登録スクールでご購入いただくな、JHF事務局にお申し込みください。頒布価格は1冊500円(送料込)です。頒布の準備ができ次第、詳細をJHFウェブサイトでお知らせします。



足尾のティクオフに全員が集合。台風が心配だったが、無事成立で一同笑顔。

JHFからのお願い

■お名前・ご住所が変わったら

早めにお知らせください

発行のたびに宛先不明で戻ってくる
JHFレポートが少なくありません。

JHFレポートには、フライヤー会員
の皆さまにぜひ読んでいただきたい情
報を掲載しています。氏名や住所に変
更があったら、お手数ですが早めに
メールかFAXで事務局にお知らせく
ださい。

[お知らせいただきたいこと]

- ・フライヤー会員番号
- ・お名前（氏名変更の場合は新旧名）
- ・新しいご住所
- ・連絡先電話番号
- ・メールアドレス

もしフライターオの仲間に転居された
方や、お名前が変わった方がいたなら
「JHFに変更の連絡をした？」と声を

かけていただけだと、たいへん助かり
ます。

■各種申し込みやお知らせ お問い合わせはJHF事務局へ

公益社団法人

日本ハング・パラグライディング連盟
〒114-0015 東京都北区中里1-1-1-301
TEL.03-5834-2889 FAX.03-5834-2089
E-mail:info@jhf.hangpara.or.jp
<https://jhf.hangpara.or.jp>

事務局業務の効率化のため、ご連絡
はできるだけメールでお願いします。
回答が通常より遅れることがあります
が、順次対応をいたしますのでご理解
ください。

被災地復興 応援プロジェクト 「空はひとつ」

東日本大震災被災地への義援金を引
き続き募っています。

◇義援金振込先

三菱UFJ銀行（銀行コード0005）

巣鴨支店（店番号770）

口座番号 普通 0017991

口座名義 公益社団法人日本ハング・
パラグライディング連盟

JHFレポート239号

発行日：2022年（令和4年）10月30日
発 行：公益社団法人 日本ハング・パラ
グライディング連盟（JHF）
編 集：JHF事務局
印 刷：株式会社アイセレクト



上空利用可能デジタル無線機 使用のお薦め

2024年（令和6年）11月30日にアナロ
グ式簡易無線機の運用が終了することに
備えて、JHFではハンググライダーやパ
ラグライダーのフライト中に使用する無
線機として「簡易無線登録局」対応のデ
ジタル無線機の使用を推奨しています。

上空利用5チャンネルを搭載、デジタル
方式の音声なので、混信もなくクリヤー
で聞き取りやすくなっています。現在の
対応機種はSTANDARD製のVX-291S、
VXD450S、VXD1S、ICOM製のIC-
DPR30、IC-DPR4、KENWOOD製のTPZ-
D510です。

JHF賛助会員（JHFウェブサイトにバナー
を掲載）からも購入することができます。

なお、JHFではSTANDARD製デジタル
無線機を15台保有し、フライヤー会員
に貸し出しをしています。ご希望の方は
JHFウェブサイトの「JHFのご案内」を
ご覧のうえお申し込みください。

すでにデジタル無線機をお持ちの方
は、無線機の登録手続きを済ませ利用料
を納めているか、ご確認ください。登録
をしないまま無線機を運用すると、不法
無線局として処罰の対象になります（1
年以下の懲役または100万円以下の罰
金）。お忘れのないようお願いします。